

第6回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成25年11月22日(金) 10:00~11:35
- 2 場 所 備前市役所3階 大会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員14名 (内アドバイザー1名)
アドバイザー 5名 (岡山県3名、兵庫県2名)
事務局9名 (備前市4名、赤穂市3名、上郡町2名)
説明員10名 (備前市職員)
- 4 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、只今から、第6回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。

開会にあたり、座長の備前市自治会連絡協議会会長 宇治橋様よりごあいさつをいただきたいと思っております。

座 長 本日第6回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたしましたところ、委員の皆様にはご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。昨年以来の開催となりますが、その間委員の方におかれましては、役員改選やその他異動等により4名の方々が今回より新しくご就任いただいているところでございます。新しく委員になられました方におかれましてはよろしくお願いたします。

この東備西播定住自立圏では、ご案内のとおり圏域全体の魅力の向上、活力ある地域づくり、住みよい圏域形成を目指して、圏域共生ビジョンに基づいた様々な事業を展開しているところであります。本日は、共生ビジョンに記載した取組みの進捗状況の報告や、平成26年度のビジョン見直し(案)についてご検討いただくとともに、住みよい圏域形成に向け、意見交換やご提案をいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

会議の前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。

(名簿により構成員等の紹介)

それでは、ここからは座長、議事進行をお願いいたします。

座 長 東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について事務局より報告願います。

事務局 それでは、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況として資料1の平成24年度事業報告書及び資料2の平成25年度上半期報告の2つの資料で説明させていただきます。

なお各取組みに関する詳細については、本日各部会より説明員が来ておりますので、ご質問等につきましては、説明後にお尋ねいただければと思っております。

(資料1より事業報告を説明、資料2よりH25年度の新規・変更事業を抜粋して説明)

以上で、東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について説明を終わります。

座長 事務局の報告が終わりました。ただいまの報告について、質問やご意見がありましたらお受けいたします。

委員 定住相談会開催事業への提案というか情報としまして、バス運行のための大型二種免許取得ドライバーが高齢化してきているので、免許取得者の人員採用が必要となってきている。こうした部分は、タイアップすれば、帰ってくる圏域のU・Iターン希望者への働く場の確保のお手伝いになるのではないかと思う。

事務局 貴重な提案ありがとうございます。検討させていただきます。

委員 定住相談会開催の実績は記載してあるが、その後の結果はどうなっているか教えてほしい。

事務局 残念ながら相談に来られた方が、定住とまではいっていないという結果ですが、後日あらためて訪れられたということはありますので、少しずつ興味を持った方が現れ始めたところと推測しております。(事後、上郡町に1組2名が定住と訂正)

座長 ほかに、何かありますか。

無いようでしたら東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況報告を終わります。

次に協議事項に入らせていただきます。東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成26年度見直し(案)について、事務局より説明願います。

事務局 今回の共生ビジョンの見直しは、新規として1件、変更として1件の合わせて2件であります。資料3をご覧ください。

新規案件として、上郡町生涯学習施設整備事業でございます。

内容につきまして、圏域市町間における「図書館相互利用推進事業」をはじめ、各種圏域事業による圏域住民の文化振興、住民交流等を促進する場として重要な役割を果たす拠点施設である「上郡町生涯学習支援センター」の施設及び設備等の整備を行うものです。事業費は上郡町の負担で行われます。

続きまして、変更案件として裏面をご覧ください。地域公共交通部門の圏域バスです。圏域バスにつきましては、去る7月26日に開催しました、第3回東備西播定住自立圏 圏域バス検討会議におきまして、運行実績を検証した結果、今後バスの小型化して市民病院とイオンの店舗前までの乗り入れ、上郡ルートの新町までの延長をする予定で、平成26年3月より本格運行することを決定いたしました。これを受けまして、平成26年度につきましては、これまでの試験運行実施のための事業を本格運行のための事業といたしたく、掲記の変更をするものでございます。

まず事業名につきましては、「圏域運行バス調査・検証事業」を「圏域バス運行事業」といたします。また、事業内容につきましては、「圏域内において関係市町間を結ぶ公共交通ネットワークを構築するため、圏域運行バスの導入に向けて、住民ニーズ、バスの利用実態及び費用対効果等を分析・調査する」を「圏域内において関

係市町間を結ぶ公共交通ネットワークを構築するため、圏域バスを運行する」といたします。なお、効果、事業費につきましては変更ございません。

他の事業につきましては、現時点では引き続き現ビジョンに記載された内容で事業実施に全力を尽くしたいというのが各部会の考えであります。

なお、既存の事業を含め各事業の平成 26 年度事業費の数値については、現段階における見込みであり、今後予算査定等を経て決定していきます。事業費決定後、委員の皆様へ 26 年度版のビジョンを送付のうえ報告をさせていただきたいと考えております。また本、年度中に懇談会を開催すべき事案が発生した場合には、座長及びアドバイザーと相談させていただき、見直したいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上で平成 26 年度ビジョンの見直し案についての説明を終わります。

座長 事務局からの説明がありました。ご質問等ございませんか。

委員 圏域運行バスの上郡ルートについて、梨が原から上郡駅までの延長や千種川沿いを逸れていくような検討も含め、住民の立場で幅広く考えていただきたい。

事務局 本格運行に移行しますが、固まったというわけではなく、今後も要望やルート見直し等を検討や検証を行っていく必要が生じてきます。ただ、タクシー事業者との関係もありますので、慎重に検討していきたいと考えています。

座長 他にご意見はございませんか。他に無いようでしたら、お諮りいたします。東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成 26 年度見直し(案)については、原案どおり承認していただくこととしてよろしいか。また、平成 26 年度事業費の確定後に委員の皆様へ平成 26 年度版共生ビジョンを送付させていただき報告するということがよろしいか。

(「よろしい」の声)

ありがとうございます。

それでは、平成 26 年度共生ビジョン見直し案については承認されました。なお、先ほども事務局が言われましたが、今年度中に再度ビジョンの見直し等のことがありましたら、アドバイザーの先生と相談させていただいた上で、作業を進め、見直すということによろしいか。

(「よろしい」との声)

次に 5 番目の意見交換に移らせていただきます。

委員の皆様から、3 市町が今後、発展、活性化していくためにはどのようにしたらよいかなど日頃から考えておられる意見等がございましたらご自由にご発言願います。どなたからでも結構です。

委員 この場をお借りしまして、圏域バスを本格運行するためにバスを購入することになりました。ありがとうございます。

委員 初めに参加させていただき、状況を聞かせていただきました。気になった点がありますので発言させていただきます。これからも末永く地域で子供たちがいきいき生きることが大事だと思います。具体的事業の提案は申し上げることはできないが、ビジョンの中に子供の成長に関わる事業を入れ込んだりすることができるかお尋ねしたい。

アドバイザー 定住自立圏の取組みは、圏域からの人口流出を防止し、都市部から圏域への人の流れを創出するという本質があります。地域社会を魅力的なものにしていくためには、医療と教育とか公共交通ですね、そういうところが根幹になります。この視点はとても重要ですので、是非検討していただきたいと思います。

委員 圏域バスの運行はとてもありがたい。今後、高齢者にとって非常に重要な移動手段になると思います。運行に携わる方々にこれからも頑張って欲しい。

アドバイザー 圏域バスの運行は、公共交通の確保というとても重要な要素です。本格運行の基準をクリアしたということですが、定住圏の取組み後は地域にその運営が押し掛かってくることになります。その時に地域を支える重要な公共交通として住民に活用されるように、今から十分に利用PRを行い、認識を挙げておくことがとても重要になってきます。

座長 まだ発言をされていない方もいらっしゃいますので、これからの定住自立圏の取組みについて、ネタといますか、ヒントになるような事や感想など何でも結構ですので、順番に一言ずつお願いいたします。

委員 他地域を参考にしてみると、若者が外にでていても伝統的な祭りなど熱くなれるものがあれば地元に戻ってくる様子が見受けられる。こうした熱くなれるようなものというか伝統を創ることを検討してみることも一考ではないか。そして、先程バスのお話があったが、バスの利用促進の一環としてバスをもっと身近なものにするために、(病院での保険証についての説明を例に)子供たちだけでもバスに乗車できるようなことを教えること等もいいのではと思っています。医療の方につきましては、県の壁が残念ながら存在しているように感じられる。老々介護など圏域社会の高齢化に対応していくためにも、こうした壁を乗り越えて協力できるようにしていきたいと考えている。

委員 圏域の共通項として儒学をテーマにした観光や交流を海外などへのPRも視野に入れて展開できないかと思っている。

委員 若手陶芸作家などの独立支援や援助などこれも企業誘致とは言わないが、圏域内に事業者を増やす方向になるのではないかと思う。

委員 先日プロバスケットボールの試合が備前で開催された。青少年にこうしたスポーツや文化面で夢と感動を与えることができる取組みを圏域の特徴として取り組んでみるのはどうか。

- 委員 今年制作したポスターの発想は非常に良い。
- 委員 平成22年度から取り組んだ特産品開発のその後がどうなっているか教えて欲しい。
- 座長 後ほど事務局から回答をお願いします。次の方どうぞ。
- 委員 上郡町では、円心モロどんのスタンプラリーなどに取り組んでいる。大鳥圭介など地域の歴史的人物や史跡などにスポットを当てた取り組みも参考になればと思う。
- 委員 圏域での取り組みが見えるものになってきたと思うので、PR不足を解消していくようにもう少し圏域内の事業広報に力を入れてみてはどうか。バスの件について、報告数値から利用者は運行開始時から減っていないが、増えているとも言えない状態だと読み取れる。当たり前のことですが、使ってもらえるようにバス利用の促進をもっと工夫していく必要がある。あと鳥獣害対策事業費をもうちょっと考えていただくよう希望します。
- 委員 鳥獣害対策ことについて、どことも困っている状態です。圏域で狩猟者の育成に取り組んでいく必要がある。場合によっては、専任の狩猟者を設置することなども一考する価値があるのではないかと思います。
- 委員 3市町お互いに行き来をし合いながら活性化することを楽しむようなまちづくりが定住圏の原点だろう。バス利用者からも赤穂駅には乗り入れないのかと聞くこともあり、山陽本線と赤穂線を結ぶような交通手段を検討してみてはどうか。
- 委員 小学校でのバスの乗り方教室などにも取り組んでいる。また、これからはCO2削減など環境側面からのバス利用促進を進めていってはどうか。
- 委員 これまでの取組みについて、全体の費用対効果を明らかにしていく必要がある時期にきていると思う。何か全体が見える一覧表のようなものを作成して、事業の見直しや移行を行うようにして、この会議で計画をしっかりと立てて継続性や大きな方向性を協議するような管理方法も検討していくべきではないかと思う。
- 座長 最後にアドバイザーからお願いします。
- アドバイザー 皆さんからいろいろ貴重なご意見をいただきました。今日は、ちょっと残念だったのが、赤穂市のメンバーが少し少なかったようですね。次回以降、なるべく多くの方にご参加いただくようにお願いします。
- ここまでのお話について、何点かポイントを挙げてみたい。まず、圏域で安心して暮らすためには、「医療分野の充実」は欠かせない。出産支援などを含め、今後もしっかりと取組みや連携を一体感を持って実施していくべきである。次に雇用、「働く場の創出」が重要。そう意味でいけば、地元の地域資源や地場産業に磨きをかけることが原点となるのではないかと思う。3つ目はPRについて、まだまだ取組み自体が、一般市民に浸透していないと思われる。ポータルサイト「ともりんく」の活用などを通じてしっかりと広報活動や外に向けても情報発信を行っていくことが大事です。あと鳥獣害対策について、一自治体で対策は難しいので、こうした問題こそ広域で取り組ん

でいく必要が大いにあると思われる。それと圏域のマネジメント能力の強化ですが、職員や地域の交流につながるマネジメントを行える人物の育成には、いろいろな経験が本当に重要になってきます。こうした研修事業は、目的をはっきりさせたうえで実施することが大切です。あと、費用対効果の問題ですね。先程話題にもあったように全体の費用やお金の流れを明らかにして、事業順位など必要な事業の棚卸作業につながる検証も必要になってきています。

座長 どうもありがとうございました。せっかくですので、他に何かございますか。無いようでしたら事務局からなにかありますか。

事務局 先程のご質問の中で出てきた地域ブランドの件、おそらく「塩モロどん」のことだろうと思います。開発後に圏域内の飲食店のメニューに取り入れていただいたりしていましたが、一部売れ行き芳しくないお店はメニューから消えたところもあるようです。詳細資料が必要であれば後日お届けします。

委員 セっかく予算をかけて開発したものです、成果を発表したり、活かしていくようにしましょう。

事務局 備前市では行政評価なども行っております。これにつきましても当然そうした検証を行っていくのが普通だと思いますので、事務局の方で対応させていただきます。

座長 その他事務局から何かありますか。

事務局 共生ビジョンは毎年見直しすることとなっております。その際には、懇談会での検討を経ることが必要となっており、本日ご検討いただいたところです。

先ほど、平成26年度のビジョンにつきましてご承認いただきました。委員の皆様方からいただいた貴重なご意見は、該当部会に伝え検討するとともに、今後事務局において、総務省との協議等諸手続きを経て年度末までにビジョンを公表してまいります。

また、この共生ビジョンは、来年度が最終年度となります。平成27年度以降につきましても、新たなビジョンを策定し、東備西播定住自立圏での取り組みを推進していくことになろうかと思えます。

まだ、仮定の話ではありますが、新しい共生ビジョンを策定する際には、これまで行ってきた事業を検証するとともに、アドバイザーの先生をはじめ、委員の皆様方からいただいた貴重なご意見も踏まえまして、地域全体における生活機能が向上し、圏域の魅力が向上するようなビジョンにしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

座長 これで閉会と致します。ありがとうございました。